

作文コンクール



市議会90周年を記念し、「私たちの思いを、未来へつなごう!」をテーマに作文コンクールを実施しました。市内の小・中学生から173作品の応募をいただき、審査員となった市議会議員による選考の結果、議長賞4作品、副議長賞4作品、審査員賞12作品が選ばれました。

令和6年11月10日の表彰式には、来賓として田中甲市長と勝山浩司教育長をお招きし、表彰状の授与、議長賞受賞者による作文朗読が行われました。受賞者の皆さんは、普段入ることができない議場での表彰式に、初めは緊張した面持ちでしたが、最後は素敵な笑顔を見せてくれました。

来賓挨拶(要旨)

田中 甲 市長

受賞、誠にありがとうございます。ここにいる皆さんは、市川市に良いまちになってもらいたい、市川市に住み続けたいという純粋な気持ちで作文を書いたと思います。世代を超えて、力を合わせてより良い市川市をつくっていきましょう。

勝山 浩司 教育長

受賞、大変おめでとうございます。何もないところから文章を書く作業は大変だったと思います。教育委員会としては、皆さんの学びにつながる活動をこれからも支えていきたいと考えています。

議長賞

第三中学校1年
平田小学校5年

知久 由梨奈
立花 美織

八幡小学校6年
南行徳小学校4年

江見 碧
千葉 詩乃

副議長賞

妙典中学校1年
平田小学校5年

石井 楊将
川平 和花

市川小学校6年
富貴島小学校4年

高橋 和花
塩谷 咲

審査員賞

福栄中学校2年
市川小学校5年
百合台小学校4年
富貴島小学校4年

塚本 圭音
津守 眞里花
田下 幸一郎
横野 至

行徳小学校6年
市川小学校5年
富貴島小学校4年
富貴島小学校4年

今泉 明憲
金定 莉子
山田 かなみ
吉村 梨花

福栄小学校5年
南行徳小学校5年
富貴島小学校4年
南行徳小学校4年

豊岡 由良
齊藤 菜央
山本 響暉
村木 成実

※受賞者の敬称は、省略させていただいております。

議長賞受賞作品

原文のまま掲載しておりますが、スペースの都合上、文章の改行は省略しております。作品は、右記2次元コードからもご覧いただけます。



市川市の未来へつなぐ地域の絆

第三中学校1年 知久 由梨奈

私は二十年后も人々が災害にも負けず、安心して生活できる市川市の未来を想像した。今現在、市川市の人口は約四十九万五千人だ。二十年后日本の人口は減少しているが市川市の人口は変わらないだろう。なぜかという市川市にはたくさんの防災設備を持った公園や子ども園、そして世代を超えてグループホームや地域の方々と、そして学生たちが集える公共の場があり、とても生活しやすい環境が整っている。私たちはこれからもこの街に住み続けたいと強く願っている。人々が安心して生活するには、これから来るであろう様々な災害から地域を守る必要がある。市川市には地域の人々と協力して色々な災害に対応できる施設がたくさんある。地域ごとの施設を活用して交流を深め、安心安全な街づくりを私たちが若い世代が年長者の方たちの思いを未来へ繋いでいく必要がある。そのためには地域の人々との日頃からの絆や、チームワークが大切だ。そこで私は今年の四月に中学生になったので、自分に何ができることはないかと考えてみた。地域のボランティアに参加したいと思っていたが、人見知りの私は少しハードルが高かった。しかし、今年の夏に私は自治会で活動している祖母の薦めもあり、地域の盆踊り会のボランティアに初めて参加することができた。通っている中学で地域ボランティアのお誘いの案内もあり、思いきって友達も誘ってみた。幼い頃から親しんでいたお祭りにボランティアとして参加できる事がとてもうれしく、誇らしく思った。当日、盆踊り会の自転車置き場の整備やお祭りの見回り、お菓子配りなどを担当した。その中でお祭りに参加した小さな子どもからお年寄りの方まで、たくさんの方々の笑顔を見ることができてとてもやりがいを感じた。普段お話しすることがない方たちとお話が出来て楽しかった。その話の中で、私の自治会はなんと今年で創立七十周年である事を知った。市川市議会は今年九十周年だ。たくさんの方々の思いが受け継がれ今を創っている。そう考えると感慨深いものを感じた。このような地域社会での交流の場を大切に、安心安全な街づくりを目指したい。子どもがいきいきと学び遊び、健やかに育ち社会人になって、お年寄りとなる。それぞれのステージでこの思いを忘れないように、未来へつないでいく事が非常に大事なことで強く感じた。この市川市を支えていく存在となるのは、この街に住んでいる自分たちなのだと思える機会となった。私はこれからも勇気をだして地域のボランティア活動をしてみたい。

エコでつかもう明るい未来

八幡小学校6年 江見 碧

私の母はいつも言っています。「水と食べ物と電気を大切にしない人は幸せになれない。」と。最近では「SDGs」という言葉をよく耳にします。本で調べると、世界は危機的な状態になっていることがわかりました。そこで、せめて市川市だけでも、「エコな街」にしたいと思いました。私が想像するのは、六年後の未来です。皆が水、電気、食物を大切に思い、大切に使用すれば、危機的な状態も少しは救われるのではないのでしょうか。市川市は食品ロスが少ない、市川市は、水と電気の無駄使いが少ない。そういうふうにはめられたら、他の市もおのずと、エコな市になるだろうと動いてくれるのかもしれないと思います。そのために、私達にできることは沢山あります。これから挙げるのは、その例です。例一 毎日エアコンをつけるのではなく、風がある日は、まどを開ければ涼しく、風がある日は、まどを開ければ涼しく、また、外との気温差も少ないので、外出するのとがあまりおっくうになりません。例二 火をつける時間を短くするため、お湯をわかすときはふたをしています。そのほうがより早く、効率よくわかせるからです。例三 食べ物や野菜を捨てずに、野菜も食べられるところまで食べます。人参の皮もむきませんし、野菜のへたも取りません。かぼちゃの種も、みそしるに入れます。「リ・リ・リ」してとても美味いんです。例四 トイレにはまどがあり、晴れの日は日が差しこむので周りが見えるはんいの明るさでは電気を付けません。例五 お皿を洗うときは、一度水をためて、ため洗いをしています。それに、食後終わってすぐにお皿を水にひたすと、よごれがとれて洗いやすくなるので水をむだ使いをしようというつもりはありません。このように少しの努力で、世界が救われるのなら、私はこれらをいつまでも続けたいと思います。そして、その努力を市川市の全員で実行すれば、良い未来につながれると感じます。六年後、地球温暖化の心配などしなくても良いようになつてほしいです。そのため、水と食べ物と電気を大切にしない人は幸せになれない言葉を大切に、少しの努力をつないでいきます。